

## 穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会 会議概要

委員会名	第5回穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会
日時	平成23年3月30日(水) 10:00~11:00
場所	市民活動センター 南会議室
出席者	腰原委員、川上委員、勝野委員、北澤委員、衛藤委員、土屋委員、河村委員、宇留賀委員
欠席者	塚田委員、辻谷委員、佐藤委員、臺委員
市側出席者	大内商工観光部長、高橋観光課長、赤羽観光施設係長、丸山(真)主査、丸山(武)主査
公開・非公開の別	公開・非公開
傍聴人	1名 記者 1名
協議事項等	
1.会議概要	
(1) 開会	
(2) あいさつ	
(3) 協議事項	
①前回意見の確認	
②検討委員会の提言書について	
③その他	
(4) その他	
(5) 閉会	
2.会議要旨	
◇今回最終の委員会になるので提言書をまとめたい。(委員長)	
◇資料2頁の観光の現状の中で、市内での宿泊者は約20%と記載があるが、何か資料があるか。(委員)	
◇第1回検討委員会でお示した資料に記載のある長野県の調査結果です。(事務局)	
◇資料2頁の穂高温泉郷における「しゃくなげ荘」の位置づけの中で、宿泊施設が40件になっているが、件ではなく軒の方がいいと思う。(委員)	
◇訂正します。(事務局)	
◇資料3頁提言1:天然温泉を活用した施設の設置についての①の中で、『市民が交流し』という記載があるが、確かに市民が温泉施設を利用する上で大事ではあるが、市民だけでいいのか。観光の視点で考えれば疑問がある。単なる入浴的な施設だけでいいのか。(委員)	
◇公の施設ということで市民が中心ということでこのように記載したが、意見があれば付け加えていきたい。(事務局)	
◇観光を付け加えることにしたい。(委員長)	
◇市として宿泊施設はつくらない。民間で希望があれば阻害はできない。(事務局)	
◇資料4頁提言2:安曇野市の観光の拠点とするためのしゃくなげ荘周辺の整備についての中で、地元の企画と記載があるが、地域という表現でもいいのではないか。(委員)	
◇提言書では地元ではなく地域という表現で統一したい。(事務局)	

◇事務局でまとめていただいた提言書の中に民間活力を利用したという記載があるので、事務局から説明があったように、行政が大きな投資はできないが、民間活力を利用することであれば、宿泊も検討できると思う。しゃくなげ荘周辺整備についても7～8年前から検討されてきたが、今回の提言も併せて次のステップの委員会をたちあげ、提言で終わらず、踏み込んだものにしてほしい。行政が提言を聞いただけでなく、アクションを起こせるものを付け加えてほしい。(委員)

◇市の宿泊施設では農林部が所管しているものもある。農林部でも検討しているが、庁内組織一体となって、公の施設を検討して方針を出したい。(事務局)

◇穂高地域にとってはしゃくなげ荘の問題は何年来検討を重ねてきて、建物も老朽化して早急に取り組まなければいけない。何もしないで終わりになってはいけない。財政面そして地震で観光面でも打撃を受けているが、有効に活用する具体的な形でまとめて市民に示してもらいたい。(委員)

◇庁内で財政面も含めて検討して、公の施設をどうするかできるだけ早い時期に公表したい。(事務局)

◇資料4頁提言2：安曇野市の観光の拠点とするためのしゃくなげ荘周辺の整備についての中で、観光情報発信の面ではすでにブランド化されていると記載があるが、どういう意味か。(委員)

◇先生のご意見や、ブランド研究所がまとめた報告書に基づきそのように表現にした。(事務局)

◇提言書は今までのことがそれぞれ網羅されていると思う。ほぼ満足している。穂高温泉郷の基幹施設となるための条件でソフト・ハード両面あり、国営アルプスあづみの公園とVif穂高のレンタサイクルの話もある。サイクリングロードの整備が必要だが、現状の山麓線の交通量を考えると危険が潜んでいる。レンタサイクルを始める前に道路整備をしなければならないと思う。観光シーズンになるとかなりの交通量で烏川の橋の周辺は渋滞が激しい。サイクリングやウォーキングする人が増えれば、なお、渋滞を招くと思う。県道なので市でどうこうできないが、長野県と協議して、まず道路を整備してほしい。生活道路でもあるので、区としても要望をあげていきたい。(委員)

◇市の施策になると思う。観光客が安心できるようにしなければいけない。(委員長)

◇都市建設部を中心に長野県へも要望している。とりあえず『おひさま』もからめて、レンタサイクルをやっていく。(事務局)

◇短期間で貴重な議論をしていただいた。市が観光に対するビジョンをつくらなければいけないと思う。議論を整理しづらかったと思う。安曇野市の観光の現状が見えづらく難しい点もある。字句の訂正をもう一度確認したい。提言前に修正部分を委員の皆さんに確認していただきたい。平成23年度の上半期までには全体の構想をまとめたい。一つの方向性は今回の提言に示されていると思う。(事務局)